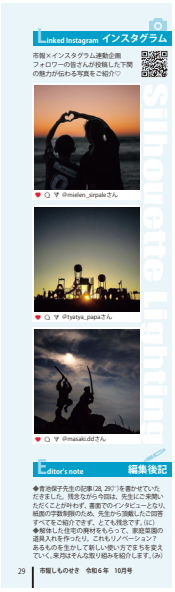
漫画家生活
60周年記念
青池保子展
Yasuko Aoike
60 Years of Dazzling
Manga Artistry

青池保子先生
スペシャル インタビュー

市報しものせき 10 月号の「しもまちキラリ」のコーナーに、青池保子先生が登場します。去る９月初旬、記事掲載のために下関市広報戦略課が青池先生に書面取材しました。先生から寄せられた回答は、とても貴重なお話であふれていました。
ここでは、市報紙面では紹介しきれなかった先生の語りを、余すことなくご紹介します。

※質問に対する、先生からの手書きの回答を書き起こし作成しています。


Linked Instagram インスタグラム
市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関の魅力が伝わる写真をご紹介♡
@miilan_sirpale さん
@hjatya_papa さん
@masaki.dd さん
Editor's note 編集後記
◆青池保子先生の記事（28、29ページ）を書かせていただきました。残念ながら今回は、先生にご来関いただくことが叶わず、書面でのインタビューとなり、紙面の字数制限のため、先生から回答いただいた内容のすべてをご紙面ではご紹介できず、とても残念です。（EC）
◆新婚した住宅の断熱をもらって、家庭菜園の道具入れを作ったり、これもリノベーション？あるものを生かして新しい使い方でまちを変えていく、楽四ぜんな取り組みを紹介します。（JA）
29 市報しものせき 令和6年 10月号

しもまちキラリ

漫画家
青池保子さん
「エロイカより愛をこめて」「アルカサルー王城ー」など数々の人気漫画を描き続ける下関出身の青池保子さん。豊かな知識と緻密な取材に基づいた、華麗で独創的な世界を展開する青池さんを紹介します。

▲調査が楽しめるように、細かい題材をいつも探し、描いています。

精魂込めて描き続ける漫画人生

水野英子さんとの出会い

少女時代、青池さんは毎月少女誌のアクション漫画を愛読していましたが、同郷の先生だと思い、憧れを抱くようになったのは、漫画家水野英子さんの女性ファンである水野先生に手紙を送り続けた水野先生の大ファンである水野先生に手紙を送り続けた日、先生からお応えとして、1通目は、「エロイカより愛をこめて」の直筆サインが入れてあるカードでした。「エロイカより愛をこめて」は、「ちょっと、待ってください！」と、その瞬間、「天にも昇る気持ちでした」と青池さん。話しは、中学1年生の夏、青池さんは高校2年生の姉に付き添われて、3年生の姉と一緒に、母と下関駅まで、「エロイカより愛をこめて」の直筆サインが入ったカードを受け取りました。

漫画家として大切なこと

それからの10年間はいりぼ、それからの10年間はいりぼ、青池さんが描くヨーロッパ、学園ラブコメディを描き続けた、多様なジャンルで、メロドラマやロックなど、興味あるものの全部詰め込んだ、ラブの息子たちを見守りに、個性的なキャラクターが登場する、異次元の、なぜ、「自身が好きものを描く」が、「自分が好きものの漫画家になること」を決意します。ファンが喜ぶ、ロマンを魅了していきます。

青池さんが描くヨーロッパを舞台とした数々の漫画は、「昭和に戻来に向かい、「できるだけ資料を調べて、嘘は描切にしています」と、「歴史文化を私はいつもとても大切にしています」と青池さん。「漫画家として大切にしたいことは、「漫画制作のデジタル化の波は、あれど、60年間漫画を続けて、現在、「原稿が無くなる」、「現在、「原稿が無くなる」、「現在、「原稿が無くなる」、「

デビューのころ

ページ数と〆切日をいわれて、緊張のあまり、何を描いたらいいのか分からなくなって、あたふたとお話をでっちあげたので、雑誌に掲載されたときには、見るのもはずかしかったですね。お話も絵も下手くそだったし。
両親は喜んでいました。他人に迷惑をかけなければ、自分がやりたい事をやりなさいという家風でしたから。姉兄たちも、見守ってくれました。当時はデビューしただけという感じで、まさかその後 60 年間も漫画を描き続けるなんて夢にも思いませんでしたよ。

水野英子先生

小学生のころから水野英子先生の大ファンで、小学４年生の頃からファン・レターを送ったりしていました。当時は当り前のように雑誌に作者の住所が載っていたので、先生のお宅が市内にあるのが、とても嬉しかったです。
中学１年の時に、先生から下関へ帰省するので遊びにいらしゃいというお便りをもらって（先生は東京でお仕事をしていた）天にも昇る気持ちでした。日付けは忘れましたが、夏休み中だったと思います。
当時高校２年生の姉の付きそいで上新地の了円寺のバス停を下りて先生のお宅へ。おばあさんが運んでくれた冷えたキリンレモンものどを通らないほど緊張していました。
水野先生は、20 代前半の若さでしたが、髪の毛をきりりとひっつめにして、てきぱきとした口調やふるまいがいかにも仕事人らしく、ああ、東京で活躍している漫画家の先生なんだと、素朴に感銘を受けました。
何より感動したのは、私たちの目の前で、B4 の原稿用紙に、サラサラと「星のたてごと」の主人公リンダを、立ち姿とアップの２枚を、白紙から下書きをしてペン入れまで一気に描き上げてくださったこと。　神業でした。
自分の 60 年の技術の推移を振り返っても、到底まねの出来ない事です。それは貴重な体験でした。何冊もの教材より大きな学びになりました。水野先生が下関のご出身でなかったら、自分の漫画家への歩みはどうであったか。
神業を目の当たりにできた幸運に感謝するばかりです。
つきそってくれた姉は、13 年前に他界しました。優しかった姉の思い出と共に忘れられない夏の日の訪問です。

試行錯誤の日々

デビュー作を描いていた頃読んでいた「少女漫画」は水野先生の作品ばかりで、好きだったのはほとんど少年誌のアクション漫画でした。編集長に少女漫画らしい絵を描きなさいといわれて、なんとか可愛くしようと、目を大きくしたり、まつ毛を長くしたり試行錯誤を重ねました。今現在も努力していますよ。

代表作について

「イブの息子たち」

「少女フレンド」で 10 年位、メロドラマや学園ラブコメばかり描いていましたが、フリーになって自分の好きなものを描こうと思ったんです。
元々、漫画らしい破天荒なものが好きで、ドタバタや歴史パロディやロックなど、興味のある物を全部つっこんでみました。
こんな事を描いてもいいのかと、若い作家たちが自由に目覚めたり、「イブ」で歴史を学んだという人も沢山いて、それなりに役に立っているようです。

「アルカサル―王城―」「修道士ファルコ」「ケルン市警オド」中世 3 部作

中世というと、ゲームやアニメの影響で、ファンタジーのイメージが強いですが、魔法使いもドラゴンも出て来ない普通の中世の世界を描こうと思いました。
約千年に近い中世という時代区分のうちの 14 世紀後半を舞台にしていますが、百年戦争などで資料が散逸しており、正確な所は分りません。想像力を働かせてその時代らしい風俗を描くように努力しています。

「エロイカより愛をこめて」

個性的なキャラクターたちの打打発止のやりとりと、それによって展開する意外性に富んだ物語の面白さ―これがこだわりポイントですね。
読者を愉しませるには、まず、自分が本気で楽しいと感じる事でなければならないので、自分にとって面白い事柄を、いつも探しています。

漫画家生活60年を迎えて

Conrad

いまの心境

目の前の原稿をひたすら片づけている間に60年もの時間が経っていた事に気がついて、愕然としています。玉手箱を開けて、一瞬で老人になった浦島太郎の心境に近いかも知れません。

創作における重要事

取りあげる題材に対して誠実であること。できるだけ資料を調べて嘘は描かないこと。その分野を大切にしている人に対して敬意を払うこと。

若き日への思い

飲まず食わず眠らずで頑張れた若い頃は、どんなに辛くても楽しかったですね。精一杯描きましたと、自分を愛でてやりたい。

これから…

60年間掘り続ければ井戸も枯れます。恵みの雨が降ってほしいですね。

展覧会によせて

今や漫画もデジタル化して、私のようなアナログ作家は絶滅危惧種になりました。ここに展示されている肉筆原稿は、すべてこの世にただ1枚だけ。精魂こめて描かれた絵に宿るエネルギーを感じていただければ嬉しいです。